

R6 年度		幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価							
自己評価実施日		R6 12/13		学校関係者評価実施日		R7 2/12			
法人名				園名					
学校法人 栗田学園				幼保連携型認定こども園 ふじみ幼稚園					
第2章第2節 乳児期の園児の保育	まだ言葉を話せなくても、伝えたい思いはそれぞれ。表情やジェスチャーなど小さなサインを読み取り、一人ひとりの思いを汲み取るようにしている。集団の中だからこそ個を大切に、その子その子に寄り添えるよう心がけている。子どもの思いを保育者が代弁したり、わかりやすいことばで繰り返し伝えたり、安心して過ごせるようにしている。好きな遊びを繰り返し遊べることはもちろん、季節や行事の遊びを取り入れる等変化も楽しめるよう、環境構成を工夫している。 (評議員より) 避難訓練等、保育者の指示を聞いて泣かずに動いていたので、普段の生活が身についていると感じた。子どもたちが手を振ったり、頭を下げたり、挨拶したり、人懐っこく、伸び伸びと生活しているという印象を持った。子どもの姿から保育者と信頼関係ができていると感じた。親として安心して預けられる園だと思う 評価5								
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	落ち着いた環境の中で、個のペースを大事にし、ゆったりと保育している。保育者に手伝わってもらいながら、「自分で」という気持ちを育て、自然に生活習慣が身につくようにしている。自分でできた喜びを感じ、意欲につなげている。大人にとっての小さな出来事も、子どもにとっては感動や発見など五感につながっていくことが多い。子どもと同じ目線で、一緒に感じ、子どもとの信頼関係を深めている。 (評議員より) イヤイヤ期で、自分が出てくるので大変な時期だと思うが、保育者が丁寧に対応している。水、粘土、土、葉等いろいろな素材に触れる機会を作っていて、手の感触等を育てている。集団に馴染めない子等いても、保育者が複数いるので、複数の目で見て、様々な対応をしている。子どもにとっては、安心できる存在が必ずできるように思う。 評価5								
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	自分の思いを伝える事はできている子どもが増えている。友だちと思いがぶつかる中で子ども自身で調整できない時もあり、一人ひとりに合わせた声かけや見守り、仲立ちや援助等でどの子の思いもすくってあげられるようにしている。人と関わる中で善悪等、子どもが考えて行動していけるようにしたい。子ども自身が「聞きたい」と思える話し方など工夫していきたいが、難しいと感じている。 (評議員より) 保育者や友だちの声を聞いて気持ちを切り替えている姿を見ると、信頼関係を感じる。個と集団のメリハリが出来ている。感触遊びが多く、子どもの成長に繋がっている。子ども達が自由に素材遊びをしていて、子どもの"こうやってみたい"という思いが伸び伸びしていて明るい(保育者が子どもの声を聞いている) 子どもらしい作品が多く感じる 評価5								
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	室内の温度や、食事、健康など細かなことにも気を配り、子どもが安心して心地よく過ごせる環境に努めている。個に合わせた援助をしているつもりだが、集団として育てている気がする時もあり、難しいと感じ、時々自分の保育について振り返る時がある。まだ幼い子どもなので、心配なことは園内で相談したり、必要ならば園医や栄養士など専門家に意見を求め、いろんな目で子どもを見ていけるようにしている。 (評議員より) 子どもの思いを保育者が受け止めて伸ばそうとしている。“ありがと”“ごめんね”等理由を考え、心が育っていくようにしている。「個に合わせた援助をしているつもりだが、集団として育てている気がする時もあり、難しい」と感じている気持ちを保育者が持っている事が大切。今後も心のどこかに持って保育して欲しい 評価5								
第3章 健康及び安全	猛暑や感染症の蔓延等、予想外の事が起こり、できることはしているが、対応が難しいと感じている。災害では、常に怖さを感じ、いろいろなシチュエーションや場面を想定して、避難訓練を行っている。実際に地震があった時に園児が一番最初に反応し、机の下に隠れたという話を保護者から聞いた時、小さな積み重ねがいかに大切かを感じた。子ども自身が自分の身を守れることができれば、今自分たちがしていることは意味のあることだと感じた。 (評議員より) 保育者が子どもの安全や健康に配慮し保育や活動をしている。欠席の子の理由がグラフで出るので、感染症が出た時は家庭でも注意しやすく、親としては分かりやすい 評価5								
第4章 子育ての支援	子どもだけでなく、いろんな国の方が身近に生活するようになり、グローバル化してきたことを感じる。その良さもある反面、言葉や文化、生活の違いなど心配や配慮することも多くなった。一人ひとり各家庭と連絡を取り合いながら、丁寧に対応している。子どもだけでなく、保護者の方への支援も増えているように思う。悩み事に答えられるよう専門機関につなげることもあるが、解決できたのか疑問に思うこともあり、難しさを感じる。 (評議員より) 多国籍のお子さんや保護者の方が増えてきていることで、保護者への連絡の仕方、伝え方が難しいと、保護者会も同じ課題を感じる。個人情報の事も含めて、今までと価値観や考え方の違いを感じる。園庭開放は多国籍の方も園に来やすいので、もっと地域にPRしてもいいと思う。 評価5								
第5章 職員の資質向上	研修に参加し、職員1人1人の質の向上だけでなく、園としても 向上していけるように努力している。園外の研修に参加した際は園内で共有したり、園の研修テーマとして取り上げ、自園のこととして考え、取り入れられるようにしている。結果が出ないものもあるが、試行錯誤しながら、ゆっくり前に進んでいる気がする。 (評議員より) 保育者同士が厳しいことを言い合える関係は良いことだと思う。保育者が自分の資質を向上させよう！チャレンジしてみよう！とする感じを受ける。子どもと保育者が対話をしながら保育しているのは、“学びたい”“向上したい”気持ちが強いからだと思う。子どもと保育者の思いの共有が出来ているのではないかと感じる。 評価5								
総合	子どもが健全に成長するために、健康や安全面に留意し、保育している。一人ひとりに丁寧に向き合い、大切にしながら、集団としても成長していけるように努めている。子どもを第一に考える中で、職員も伸び伸びと保育できるよう、仕事の効率化にも取り組んでいる。職員一人ひとりが「こういう園にしたい」という思いを持ち、自分たちで理想の園を作り上げている。発展途中ではあるが、子ども、保護者 又職員にとっても、自分らしく、楽しさを得られる園でありたいと思っている。 (評議員より) 園全体で、一人ひとりの子どもを見てるように感じ、良い体制だと感じる。子どもたちはもちろん、働く側も気持ちにゆとりを持ち、生き生きと保育していることが大切。多少の大変さを感じながらも保育者一人一人がやりがいや情熱を持ち、その思いを出しやすい環境を目指して欲しい。								
データ表			データグラフ						
内容	項目数	平均	4.20	4.40	4.60	4.80	5.00	5.20	
「乳児保育」	15	4.93	「乳児保育」						
「3歳未満児保育」	32	4.53	「3歳未満児保育」						
「3歳以上児保育」	53	4.87	「3歳以上児保育」						
「教育保育の配慮事項」	16	4.81	「教育保育の配慮事項」						
「健康・安全」	29	4.97	「健康・安全」						
「子育ての支援」	18	4.94	「子育ての支援」						
「職員の資質向上」	9	5.00	「職員の資質向上」						
計	172	4.84							